

## 教育現場における造形美術教育の実態と課題

### — 山形県造形教育連盟実態調査からの考察 —

降 旗 孝

地域教育文化学部 文化創造学科

(平成18年10月2日受理)

### 要 旨

本研究では、現在の学校教育現場において造形美術教育の実態はいかなるものか、その問題点と課題について解明しようとするものである。その研究方法として、山形県造形教育連盟において実施された担当されている先生方対象の実態調査の結果から考察した。

結果的には、各学校種毎の実態や教師の意識について、調査結果から把握することができた。特に、保育園・幼稚園から高等学校まで、造形美術教育を担当されている先生方には、一貫して「子ども達に造形表現の楽しさを味わわせること」や「子ども達の思いや願いを表現させること」が、最も重要視している点であることが改めて確認できた。問題点としては、特に中学校・高等学校の美術担当教師にとっては、限られた授業時間数と施設・用具などの整備状況の不足・不備が無視できない事柄となっている。重要な課題としては、項目によっては、同じ校種においてさえも個々の教師の意識の違いが見られたことである。これは、結果的に実際の教育のあり方にも多大な影響を及ぼし、造形美術教育の教育格差を生み出している大きな要因と成ることである。

この実態調査の結果の考察から、これからの造形美術教育をより良くするために、問題点と課題の解決のための具体的な方策の考察と教育方法の改善を目指していきたい。

### 1. はじめに — 本研究の目的と動機 —

現在の学校教育現場における現状や課題はいかなるものがあるものであろうか。特に、造形美術教育において、その教育に直接携わる保育士や教師の視点から明らかにし考察したいと考えた。

山形県造形教育連盟<sup>1)</sup>は、現在の学校現場の実態を把握するために、創立以来初めての全県レベルの実態調査<sup>2)</sup>を実施した。この実態調査は、筆者も所属する県造連の研究部長会において提案され2004年に全12地区の研究部長を通じて、保育園・幼稚園から小学校、中学校、高等学校まで造形美術の教育に携わる保育士、教師を対象に調査協力をお願いし、実施した調査結果である。最終的には、保育園・幼稚園関係247名、小学校214名、中学校84名、高等学校12名の総合計559名の教育現場の先生方から調査協力いただけた。

本研究は、その実態調査結果の分析及び考察である。本研究の最終的な目的は、この研究考察を通して、山形県における造形美術教育の実態を把握すると共に、学校現場が抱える無視できない事柄や問題点を明らかにし、教育実践の質的な改善を願うものである。

ここでは、小学校の「図画工作」、中学校の「美術」、高等学校の芸術教科「美術」というように、学校種毎に異なる教科名称に対して、ここでは、一つの一貫した教科概念として捉えるために、あえて教科名ではなく「造形美術教育」の用語を使用している。

## 2. 造形美術教育で重視している点

設問4では、造形美術教育で特に重視していることはどんなことか、質問項目とした。この質問枝を通して、教師がこの教育に携わりながら、普段何を考え重視し、どのような意識で教育に臨んでいるのか、その実態を把握することができると考えた。

この教科で重視している点については、1番多かったのが、保育園・幼稚園では、「造形表現の楽しさを味わわせること」で、肯定値<sup>3)</sup>+470であり、小学校でも、この「造形表現の楽しさを味わわせること」が肯定値+432で1番高かった。中学校でも肯定値+175であり、高等学校においても肯定値+26で1番高い結果となった。ここに、学校種の違いを越えて、保育園・幼稚園から高等学校に至るまで、造形美術教育に携わる先生方は一貫して、子ども達に「造形表現の楽しさを味わわせること」を最も重視して教育に望んでいることがわかる。

次に、重視することとして高かったのは、保育園・幼稚園では、「いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること」が肯定値+407、ワンポイント違いで「個々の子どもの思いや願いを表現させること」が肯定値+406ではほぼ並んでいる。小学校では、「個々の思いや願いを表現させる」方が、肯定値+407で、材料や素材体験については、肯定値+336で続いている。中学校では、「個々の子どもの思いや願いを表現させること」の方が、+166の肯定値を示した。次には、材料・素材体験よりも「いろいろな表現方法を体験させ、身につけさせること」が3番目に高い肯定値+96を示している。

子ども達の「造形表現の楽しさを味わわせる」ことと共に、「個々の子どもの思いや願いを表現させること」をも重視していることが明らかになった。この2項目については、まったく当てはまらなないと否定的な回答をした教師は0であり、あまり当てはまらなとするマイナス回答も少なかった。

その次の重要性としては、学校種によって多少相違が現れた。保育園・幼稚園では「いろいろな材料・素材にふれさせ体験させること」であり、反対に中学校においては、「いろいろな表現方法を体験させ、身につけさせること」であった。ここで、興味深いのは、高等学校では、中学校で重視されていたこの表現技法を身に付けさせることについては、当てはまるとした教師と逆に当てはまらなとした双方の教師が存在していたことである。故に、肯定値は、プラスマイナスで相殺され結果的には肯定値が+6となり、順位的には6番目の項目となっている。つまり、表現方法の重視度が、教師個人によって異なることがわかる。

### 3. 造形美術教育における無視できない事柄や問題点

設問5では、造形美術教育に関わっていて、無視できない事柄や問題点について聞いている。ここでは、教育に携わりながら先生方が抱えている問題意識を探る項目である。

保育園・幼稚園では、「クラスの子ども達が、造形表現を楽しんでいるか」が1番多く肯定値は+370であった。特に当てはまるとして◎をつけた保育士は17名もいた。これは、設問4の重視していることとも比例しリンクした結果といえる。つまり、無視できない重要項目と解釈することができる。

次は、「クラスの中に造形表現が嫌いな子どもがいること」肯定値+114で、「クラスにやる気のない子どもがいること」肯定値+114が続いている。この2項目についても特に◎をつけた保育士も数名おり、保育園・幼稚園における無視できない事柄・問題点として上げられる。

小学校では、保育園・幼稚園と同じく「クラスの子ども達が、造形表現を楽しんでいるか」が1番高く肯定値+318を示した。次は、「学習指導要領に示されている教育内容」であり、肯定値+235であった。3番目には、「限られた授業時間数でどう授業を行うか」肯定値+204と続く。ここに、授業時間数をも含めた学習指導要領の影響力の強さ、いわば法的拘束性の一端を伺わせさせる結果でもあったと考えられる。

特に着目するのは、保育園・幼稚園で2番目3番目に多かった「クラスの中に造形表現が嫌いな子ややる気のない子どもがいること」の項目についてである。肯定値は、それぞれ-10と+8であるが、その原因が特に当てはまるとして◎をつけた教師をも含めて肯定的に、つまり当てはまると応えている教師がいる反面、逆に全く当てはまらない所に◎をつけた否定回答、つまりこの項目に当てはまらなないと応えた教師も同じだけ存在していたということである。実際にそのような子どもの存在を確認することは出来ないが、少なくとも実態の相違と共に、教師自身の問題意識にも大きな格差があることがわかる。

次に、中学校では、保育園・幼稚園及び小学校とは、結果が異なり、「限られた授業時間数でどう授業を行うか」が肯定値+133で1番高かった。特に当てはまると◎をつけた教師は15名にものぼる。次に、「クラスの子ども達が造形表現を楽しんでいるか」が、肯定値+110で続く。3番目には、「施設や用具などの整備状況」肯定値+97である。基本的に全科の小学校と異なり、教科専門制がスタートする中学校における切実な問題点として、教科の授業時間数や施設・設備の厳しい状況を垣間見ることができる。

小学校において格差として現れた「クラスの中に造形表現が嫌いな子ややる気のない子どもがいること」の項目については、肯定値がそれぞれ+54と+56で、◎をつけてる教師がおり、否定的な回答が少ないことから、中学校においては、ある程度共通の問題点の1つとして上げられる項目といえる。

高等学校においては、中学校と同様な傾向が見られた。1番高かったのは、「限られた授業時間数でどう授業を行うか」肯定値+24であり、2番目には、「子ども達が、造形表現を楽しんでいるか」肯定値+19であり、「施設や用具などの整備状況」については、3番目の肯定値+14であった。

#### 4. 幼稚園・保育園における先生方の意識傾向と課題

次に、各学校種毎にいかなる傾向と課題があるのか分析してみたい。まず保育園・幼稚園では、造形教育において特に重視していることについては、最も肯定値が高い項目は、+470の「造形表現の楽しさを味わわせること」であった。次が、肯定値+407の「いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること」、肯定値+406の「個々の子どもの思いや願いを表現させること」と続いている。逆に、最も肯定値が低かったのは、肯定値-306の「コンクールに入賞すること」であった。無視できない事柄や問題点の質問項目にしても、肯定値が1番高いのは、肯定値+370の「クラスの子ども達が、造形表現を楽しんでいるか」であった。設問3の重視していることとも関連する結果となっている。

設問6の入園前に期待したいことについては、すべての項目について、肯定値はマイナスを示し、保育園・幼稚園の保育士の先生方は、幼児期ということもあり入園前段階として、特別に期待するものをもっていないことがわかる。この傾向は、他の学校種の先生方の意識との大きな違いの一つでもある。

設問7の卒園後に期待することについては、1番肯定値が高かったのが、+307で「造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい」であった。

幼児期の造形教育では、基本的に、子ども達に造形表現の楽しさを味わわせることを最優先に重視しながら、これを次の小学校段階にも継承して欲しいと願っていることがわかる。また、特にコンクールなどを意識するような影響は、ほとんどないと言える。

保育園・幼稚園において、問題点となるのは、無視できない事柄や問題点の中で、「造形表現にやる気のない子どもがいること」「造形表現が嫌いな子どもがいること」について、まったく当てはまらないと否定する回答も多い中で、とても当てはまるに◎をつけた保育士も数名存在することである。特に「やる気のない子どもがいること」が無視できない事柄として、とても当てはまるとした保育士は40名で内3名は◎を付けている。当てはまるとした保育士も95名いたのである。「嫌いな子どもがいること」については、とても当てはまるとした保育士は41名で内4名は◎を付けている。当てはまるとした保育士も97名存在していた。ここに幼児教育段階から、この教科の問題となる傾向が芽生えていることが確認できる。その傾向を裏付けるのが、全体的な肯定値は低かったのであるが、「作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気」については、とても当てはまるが21名で内3名が◎を付けている。当てはまるも50名いたのである。この作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気などの傾向は、一般的に小学校の中学年から徐々に増え始める傾向である。この上の学校種において、大きな問題となる傾向が、わずかではあるが幼児教育段階にも表れはじめてるのである。

自由記述の中では、やはり表現することの楽しさや喜びを味わわせたいという保育士の強い願いを複数読み取ることができる。

#### 5. 小学校における先生方の意識傾向と課題

小学校における傾向としては、まず「特に重視していることは」の質問については、前

述のように「表現の楽しさを味わわせること」が肯定値+432で1番高く。この傾向は、保育園・幼稚園の先生方と同じである。しかしながら、次に来るのが、「個々の子どもの思いや願いを表現させること」が肯定値+407であった。これは、「いろいろな材料や素材にふれさせ体験すること」が第2位であった保育園・幼稚園とは異なる。因に、小学校ではこの項目は、第3位にきており肯定値は+336であった。また、保育園・幼稚園では、第6位に位置づいていた「いろいろな表現方法を経験させ、身につけさせること」が小学校では、+277で第4位に上がっている。

小学校になるにしたがい、子どもの思いや願いの表現を大事にする傾向が強くなり、さらにその表現方法も重視されるようになることが、調査結果からわかる。

入学前段階に期待したいことについては、ほとんど期待することがなかった保育園・幼稚園と異なり、小学校では、保育園・幼稚園に期待することとして、一番高かったのが、「造形表現の楽しさを体験し、その喜びを感じてきてほしい」で肯定値+359であった。いみじくも、保育園・幼稚園の保育士の先生方が、一番重視する事と一致している。

逆に、卒業後に期待したいこと、つまり中学校に期待することについては、第1位が肯定値+327で「造形表現の楽しさを重視すること」であった。次が、肯定値+305で「美術を愛好する心情を育てること」に続く。ここからも、小学校の先生方の願望は、入学前も入学後においても一貫して、子ども達に造形表現の楽しさを味わわせることを重視し、引き継いでいきたい願いであることがわかる。

設問5の無視できない事柄や問題点については、「クラスの子どもたちが楽しんでいるか」が当てはまるとした肯定値が+318で1番高く、保育園・幼稚園と同じ傾向を示していた。ところが、次に来るのが保育園・幼稚園では、「クラスの中にやる気のない子や造形表現が嫌いな子がいること」だったのが、小学校では、第2位に「学習指導要領に示されている教育内容」(肯定値+235)についてであった。第3位では、「限られた授業時間数でどう授業を行うか」が肯定値+204である。やはり、小学校から学習指導要領の存在がより無視できない事項となり、法的拘束力と影響力の強さの結果を見いだすことができる。

保育園・幼稚園で高かった「クラスの中にやる気のない子がいること」や「造形表現が嫌いな子がいること」については、小学校でも◎の付くとても当てはまると応えた教師もいる反面、その逆に全く当てはまらなと応えた教師も多く存在していたためにトータルとしての肯定値は、それぞれ-10と+8の低いものとなっている。この項目に関しても、保育園・幼稚園と同様に、小学校の場合共通の傾向と言うよりも大きな格差と実態が存在していることを認識できる。

## 6. 中学校における先生方の意識傾向と課題

中学校における傾向としては、設問4の「特に重視していること」については、「造形表現の楽しさを味わわせること」が、肯定値+175で1番高く、次に「個々の子どもの思いや願いを表現させること」が、肯定値+166で続く。これは、小学校の先生方の調査データとも一致している。

入学前の小学校段階に期待することは、「造形表現の楽しさを体験し、その喜びを感じてきてほしい」が肯定値+164で1番高い。特にと◎をつけた教師も12名いる。次に、肯

定値+149で「友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度」が続く。ここでも◎をつけた教師が10名いる。3番目には、「基本的な用具の扱いをしっかりと身に付けてきてほしい」が肯定値+67である。

この入学前に期待することは、裏を返せば、中学校入学時つまり小学校段階の課題や問題点となる実態があると解釈することもできる。「造形表現の楽しさを味わわせること」は、小学校の先生方が、一番重視している肯定値の高い事柄であったが、中にはそうでない中学1年生の入学段階の生徒も存在する結果なのか。考慮すべき実態とも言えるかもしれない。また、「友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度」が身に付いていない生徒の存在があるということは、小学校の先生方も改めて考えるべき問題点と課題といえるかもしれない。

そして、基本的な用具の扱いが身につけていない生徒の存在も確認することができる。中学校入学段階で、どの程度の基本的な用具の扱いを小学校で身に付けさせるべきなのか、その具体的な内容をも含めて、今後検討する必要があると考える。

卒業後、高等学校に期待することとしては、「美術を愛好する心情を育ててほしい」が1番高く肯定値+171であった。これは、学習指導要領<sup>4)</sup>にも記述されている内容であり、特に◎をつけた教師も13名いる。否定的回答はほとんどなく、中学校美術教師の共通の願いであることがわかる。2番目は、下の学校種の先生方と同じ「造形表現の楽しさを重視すること」で、肯定値+115であった。このことから、学校種を越えて一貫して大切にし、継承すべき事項と言えるかもしれない。

設問5の無視できない事柄や問題点では、1番肯定値が高いのが、肯定値+133で「限られた授業時間数でどう授業を行うか」である。特に当てはまると◎をつけた教師も15名も存在する。この項目については、小学校では3位であるが、高等学校では1位となっている。ここに中学校も高等学校でも、実質的な授業時間数が限られていることは、美術科の担当教師における無視できない重要な問題点となっていることがわかる。2番目は、保育園・幼稚園や小学校で1番高かった「クラス子ども達が、造形表現を楽しんでいるか」が肯定値+110で続いている。◎をつけた教師も7名存在する。3番目には、「施設や用具などの整備状況」で、肯定値+97で高い値を示している。以上のように、時間数や設備などの実質的物理的な諸条件が、中学校の教師にとって無視できない問題意識を生み出していることがわかる。

## 7. 高等学校における先生方の意識傾向と課題

高等学校における傾向としては、特に重視していることは、「造形表現の楽しさを味わわせること」で肯定値+26で1番高い。◎をつけている教師も4名いる。保育園・幼稚園から高等学校まで、一貫して重視している項目であることが確認できる。次に、「個々の子どもの思いや願いを表現させること」が肯定値+20で続く。3番目には、「いろいろな材料や素材にふれさせること」が肯定値+16の結果となった。

高校入学前段階、つまり中学校に期待したいこととしては、「造形表現の楽しさを経験しその喜びを感じてきてほしい」が肯定値+20で一番高い。特にと◎をつけた教師が12名中2名いる。次に、「友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度」が肯定

値+15で、◎をつけた教師も1名いる。この指摘は、中学校の教師も小学校に期待する事項でもあった。単純に小学校段階での課題というよりも、学校種を越えて、取り組むべき問題点と課題といえるかもしれない。

3番目には、「見て描く練習（スケッチなど）をしっかりとやってほしい」が肯定値+13であり、下の学校での傾向とは大きく異なる部分である。しかしながら、この事項については現行の学習指導要領からスケッチなどの内容<sup>5)</sup>が明記されたので、今後この実態と傾向は徐々にではあるが変わる可能性がある。

卒業後に期待することとして、「美術を愛好する心情を育ててほしい」肯定値+22で1番高かった。次に、「造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい」で肯定値+19で続く。否定的な回答は、0であった。3番目には、「将来に生きてはたらく力を身に付けてほしい」が肯定値+13であった。

設問5の無視できない事柄や問題点としては、「限られた授業時間数でどう授業をおこなうか」で肯定値+24で1番高い。特にと◎をつけた教師も2名いる。次には、「クラスの生徒が造形表現を楽しんでいるか」で肯定値+19であった。◎をつけた教師は3名いた。3番目には、「施設や用具などの整備状況」肯定値+14で続く。年間使用できる材料費、教材費については、当てはまると応えた教師もいる反面当てはまらないと応えた教師もいるので、それぞれの高等学校の実状の違いを垣間見られる。やはり、高等学校も中学校と同様に、限られた授業時間数や施設や用具などの整備状況など、時間的・物理的実態が無視できない問題点となっていることがわかる。

## 8. 教育現場から造形美術教育における問題点と課題

### (1) 教師における問題意識の相違

今回の実態調査の結果から、保育園・幼稚園から高等学校まで、造形美術教育に携わる先生方が、一貫して子ども達に「造形表現の楽しさを味わわせる」ことを重視し、「子ども達が造形表現を楽しめたか」が無視できない事柄となっていることは、とても素晴らしい教育実態として評価することができる。

また、学校種を越えて、「子ども達の思いや願いを表現させること」の重視度が高い傾向は、前述の造形表現の楽しさだけに止まるのではなく、表現の本質にも迫る傾向であり望ましい結果といえる。

ここで、大きな問題点となるのは、項目によっては、当てはまるとする教師と当てはまらないとする教師の双方の存在があり、同じ学校種においても教師の意識の相違があったことである。

例えば、「上手に作品を描いたり作ったりすること」の項目について言えば、小学校では、肯定値が+68であるが、その中で14名がとても当てはまるとしている。ほぼ当てはまるについても117名が応えている。ところが、反対に全く当てはまらないとする者は4名、あまり当てはまらないとする者も69名いたことである。中学校においては、全体の肯定値は+37であるが、ほぼ当てはまる47名、とても当てはまるも7名いたが、逆にあまり当てはまらないと応えた教師も24名存在したのである。

つまり、上手に作品を描いたり作れたりすることを重視している教師と反対に重視して

いない教師の双方の存在が確認できるのである。この結果は明確な教師の意識の相違を示すものであり、最終的にはこの教科で目指す教育観や評価感にも大きな影響を及ぼす事柄であろう。教師の教育観や意識の相違は、最終的には、実際の教育実践の教育格差を生み出す要因とも成りうる故に、大きな問題点として上げることができる。

## (2) 教科意識及び教育観に関する課題

前述の大きな教育格差が生まれ出る原因の一つに、この教科に対する意識やそれを支える教育観が、それを担当する先生方はもとより、社会一般でも不統一かつ不明確で、曖昧な現実があることを指摘することができるのではなかろうか。それは、今でもこの教科の目的を上手く上手に作品を描き作ることだと認識している人間が少なくないからである。それにこだわる雰囲気や傾向も根強い。またそれ故に、表現の良さではなく得意・不得意で語られる教科であることも無視できない事実の一つである。

「われわれは、もはやごく少数の子どもを、芸術的素養といわれてきたものを尺度にして、選り抜いて、この少数者を芸術家となるように教育はしはしない。われわれは、あらゆる子どものなかにある種の芸術家肌を認めているのであり、正常な創造的活動の奨励は、完全で均衡のとれた人格の発達に不可欠のものの一つである。」<sup>6)</sup>

戦後、日本の造形美術教育界に多大な影響を与えたハーバート・リード (Herbert Read 1893～1968) のこの主張について、もう一度再確認する必要があるのではなかろうか。

ここに改めて、造形美術教育の教育的意義と目的を明確にして、それに携わる教師はもとより子ども達や保護者に向けて、広くは社会一般にアピールする必要があると考えるのである。

## (3) 中学・高等学校における授業時間不足とゆとりのなさ

実態調査結果から無視できない問題点として、特に中学校・高等学校から授業時間数の不足を上げるものが多かった。また、施設、設備の状況や使える材料費の限度が、教育になんらかの制限を与えている現実も垣間見ることができた。おそらく、現行の学習指導要領から、完全学校5日制のスタートと共に新たに「総合的な学習の時間」が導入され、他教科と共に、この教科でも小学校3学年以上から高等学校まで、実質的な授業時間数が削減されたことが、大きく起因していると考えられる。

重要な課題と考えるのは、多くの教師が時間の不足や忙しさの中でのゆとりのなさを最大の理由にして、日本美術教育学会の全国調査結果<sup>7)</sup>のように、美術の学習指導の不十分さを自覚していることである。この環境の中では、この教科の問題点や課題については積極的に意識されず、日々の時の流れにそれらの意識は埋没してしまっている。当然のことながら、それらの課題をなんとか解決しようと試み、問題を少しでもなくそうという発想や努力は、なかなか生まれ得ないことになるからである。

## 9. お わ り に

今回、山形県において全県レベルで行われた初めての实態調査結果の考察から、造形美術教育における学校現場の先生方の実態や課題や問題点をも明らかにすることができた。

この調査に協力いただいた先生方は、小学校においては、各地区の造形部会に所属し教科主任など図画工作に対する意識がより強い先生方が対象であった。中学・高等学校に



においては常勤の先生方が対象で、非常勤の講師は対象ではなかった。全ての先生方を対象にした実態調査であれば、より造形美術教育に関する問題点や課題がより浮き彫りになったのかもしれない。

多くの先生方が、問題としていた授業時間数の不足や校務の忙しさに追われたゆとりのなさ、施設・用具などの整備状況など時間的・物質的な問題点や課題は、無視できない大きな問題点の一つであるが、他の教科にも共通する事項な上に、いくら教科時間数の確保やゆとり環境の要求をいくら訴えても現実的でないと考ええる。

造形美術教育に関する問題として、時間不足を理由にして内在する問題点や課題を棚上げにしないためにも新しい視野をもって、教科を捉えなおす必要が出てくる。つまり、全体的な時間枠が減少した中で、ただ闇雲に教科時間数の不足を訴え、時間数の確保を要求してみても現実的ではない。

今までと同じ視野で見えていてもいつになってもこの問題は解決していかないから、「総合的な学習の時間」や他教科の関連を取り入れた新たな取り組みの実践や、今までの教科教育についても単年度ではなく、縦の時間軸を通した、見通しをもった新たなカリキュラムのあり方が求められてくるだろう。この限られた授業時間での学習経験が、それ以降や以外に広く波及していくような実のある造形美術教育の実践へさらなる充実が求められるのではないだろうか。

また、この教科の教育的な意義と目的をわかりやすく明らかにして、広く世の中にアピールする必要があると考える。その具体的な方策の一つが、この教科のねらうべき教育的側面を明確にした、学校種を越えてこの教科を一貫して捉える教科カリキュラムガイド<sup>8)</sup>の提案である。

ハーバート・リードの主張のように、一部の子どものための特殊な教科ではなく、全ての子ども達の豊かな人間性の育成のために、この造形美術教育の教育的意義と重要性を主張していきたい。

なお本研究は文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）の研究成果の一部である。

## 註及び引用文献

- 1) 山形県造形教育連盟は、昭和28年7月12日に結成され、現在では、山形県内全12地区によって区分され、幼稚園・保育園から大学まで、造形美術教育に携わる先生方で組織されている。筆者自身も研究部長会に所属し大学部門研究部長である。以下、県造連で示す。
- 2) 2003年山形県造形教育連盟研究協議会山形大会に先立って、山形市内の先生を対象に実態調査を実施した。それを受けて、全12地区の研究部長を中心にして、2004年8月に全県レベルでの初めての実態調査を行った。なお本調査の集計は、山形大学美術教育講座降旗研究室で担当したものである。
- 3) 肯定値とは、各項目に対する肯定できる度を数値で表したものであり、とても当てはまるの回答には+2、当てはまるについては+1、逆に当てはまらないの回答には-1、あまり当てはまらないは-2として換算したものである。特に◎の特記の回答があった場合には、プラスマイナスそれぞれ2倍に換算している。
- 4) 文部省、「中学校学習指導要領解説—美術編—」平成11年9月、pp.9-10
- 5) 前掲書、文部省、「中学校学習指導要領解説—美術編—」、pp.29-30
- 6) Herbert Read “The Redemption of the Robot - My Encounter with Education through Art- ”、ハーバート・リード、『芸術教育による人間回復』内藤史朗訳、明治図書、1972、p.18
- 7) 日本美術教育学会でも2003年に全国調査を行っている。その結果の中で、美術の学習指導について、不十分だと応えた教師が63.1%であり、その理由が授業時間数の不足83%であった。
- 8) このカリキュラムガイドの提案については、拙稿、「カリキュラムガイドによる造形美術教育の再構築—小、中学校を一貫した教科性の模索」、美術科教育学会誌第25号、2004、pp.399-411にて、考察し論究している。

## 造形美術教育実態調査結果：

## 保育園・幼稚園 まとめ

## Q 1：現在勤務されている学校園種

公立保育園	私立保育園	公立幼稚園	私立幼稚園	合 計
57	28	30	132	247

## Q 2：あなたの教職歴は？

10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	不明
85	66	64	21	11

## Q 3：現在何歳児を担当されていますか？

## 保育園

1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
3	4	12	10	16

## 幼稚園

3 歳児(年少)	4 歳児(年中)	5 歳児(年長)
46	45	56

Q 4：造形美術教育に関して、あなたが特に重視していることはどんなことですか。以下の  
中から該当する事柄(いくつでも)に当てはまる程度の番号に○をしてください。重視する  
度合いの特に強いものには◎をしてください。

とても当てはまる－4、ほぼ当てはまる－3、あまり当てはまらない－2、まったく当てはまらない－1

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教科目標	2	15	114	58	9	0	+ 76
上手に作品を描いたり作れたりすること。	0	4	41	132	27	1	－141
個々の子どもの思いや願いを表現させること。	24	129	61	5	2	0	+406
きらりと光るような作品を作るような子どもを育てること	1	33	79	84	15	0	+ 35
造形表現の楽しさを味わわせること。	34	148	42	4	0	0	+470
発達段階に見合った表現をさせること。	8	73	100	44	1	0	+232
子どもに自由にやらせること。	3	38	125	42	3	0	+165
才能のある子どもを見つけること。	0	5	30	108	59	0	－186
いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること。	19	138	63	4	2	0	+407
コンクールに入賞させること。	0	2	9	83	116	1	－306
いろいろな表現方法を経験させ、身につけさせること。	4	39	114	53	6	0	+143
他クラスの先生方や保護者が感心する作品をつくること。	0	1	21	107	80	0	－244
年間指導計画や教科書の題材を消化してこなすこと。	0	1	27	106	72	0	－221
正直言って、他教科と比較してあまり重視していない。	0	3	26	95	69	1	－205
その他 美しいもの(花・風景・建物)を見学させる(4◎) 造形活動を通しての友達関係・心の交流・認め合い 季節に応じて材料や素材を選び工夫した保育(4)	1	2	1	1	1	1	+ 2

## Q 5：造形美術教育に関して、無視できない事柄や問題点はどんなことですか。

	◎	4	3	2	1	◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教育内容	2	19	99	58	11	0	+ 65
廊下などの作品掲示で、隣や他のクラスの作品	0	8	60	90	31	0	－ 76
クラスの子どもの達が、造形表現を楽しんでいるか	17	124	66	10	1	0	+370
限られた授業時間数でどう授業を行うか。	0	15	43	72	47	0	－ 93

クラスに造形表現にやる気のない子どもがいること	3	37	95	59	6	0	+110
クラスの中に造形表現が嫌いな子どもがいること	4	37	97	55	9	0	+114
他の先生方の指導によるコンクールでの表彰結果など	0	1	19	87	84	0	-234
同じ学年の先生や他のクラスの先生たちの見方や評価	0	3	68	86	37	0	- 86
学校の校長、教頭などの管理職の先生方の見方や評価	0	4	50	86	50	1	-132
作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気	3	19	50	78	56	1	- 94
施設や用具などの整備状況	0	22	97	63	17	0	+ 44
年間使用できる材料費、教材費	0	27	69	73	24	0	+ 2
年間指導計画や教科書を消化しなければならないこと	0	3	43	92	48	0	-139
自分のクラスの保護者の見方や評価及び言動	0	14	60	90	31	0	- 64
教科の教育以外のいろいろな雑用や公務分掌	0	14	39	76	45	0	- 99
授業時間中に他の仕事に利用してしまったことがある	0	6	7	51	95	0	-222
その他 園児のやる気をつぶさないこと 幼稚園なので自由にできる。	0	1	0	1	3	0	- 5

Q 6：現在の学校園の立場から、入学（入園）前段階に期待したいことはどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
基礎的な技法や知識をしっかりと身に付けてきてほしい。	1	3	8	64	111	1	-272
基本的な用具の扱いをしっかりと身に付けてきてほしい。	0	5	20	69	97	0	-233
いろいろな素材体験や経験をたっぷりとしてきてほしい。	1	21	38	64	67	1	-118
見て描く練習（スケッチなど）をしっかりとやってきてほしい	0	0	10	53	121	1	-289
造形表現の楽しさを体験し、その喜びを感じてきてほしい。	2	34	50	52	53	1	- 36
友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度。	4	36	58	45	51	1	- 5
正直言って、今の段階で勝負なので、あまり期待しない。	1	18	41	45	46	0	- 56
その他 絵を描くだけでなく様々な経験をしてほしい。(4◎) 家庭での絵本の読み聞かせなど 入園前の子どもに期待していることはない。 入園してから色んな素材に触れさせる。(4選択) 好奇心・探究心 色々な経験	3	3	1	0	2	0	+ 15

Q 7：現在の学校園の立場から、卒業（卒園）後に期待したいことはどんなことですか。

	◎	4	3	2	1	◎	肯定値
造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい。	18	98	65	22	2	0	+307
現在の学校で、学んだ表現技法や知識を生かしてほしい。	1	27	83	53	14	0	+ 60
美術を愛好する心情を育ててほしい。	8	59	94	27	7	0	+203
将来に生きてはたらく力を身に付けてほしい。	3	53	69	46	15	0	+111
正直言って、連携も無いし、あまり考えていない。	0	3	33	72	62	1	-161
学校種間の連携は、特に必要ないと考えている。	1	3	22	63	76	2	-191
その他 色々な表現方法を認めてほしい(4選択) 美術のみならず好きなことを続けてほしい	1	1	0	0	1	0	+ 4

## 造形美術教育実態調査結果：

小学校 まとめ

Q 1：勤務されている学校種 小学校－214名

Q 2：あなたの教職歴は？

10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	未記入
26人	84人	73人	12人	19人

Q 3：現在何年生を担当されていますか？

低学年(1・2)	中学年(3・4)	高学年(5・6)	複数学年・他担当	未記入
82人	79人	37人	13人	3人

Q 4：造形美術教育に関して、あなたが特に重視していることはどんなことですか。

以下の中から該当する事柄(いくつでも)に、当てはまる程度の番号に○をしてください。重視する  
度合の特に強いものには◎をしてください。

とても当てはまる－4 ほぼ当てはまる－3 あまり当てはまらない－2 まったく当てはまらない－1

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導(保育)要領に示されている教科目標	4	51	124	27	0	0	+215
上手に作品を描いたり作れたりすること。	0	14	117	69	4	0	+68
個々の子どもの思いや願いを表現させること。	26	123	60	3	0	0	+407
きらりと光るような作品を作るような子どもを育てること。	5	43	113	36	7	0	+169
造形表現の楽しさを味わわせること。	25	145	43	1	0	0	+432
発達段階に見合った表現をさせること。	3	66	109	29	0	0	+224
子どもに自由にやらせること。	0	10	79	100	10	0	－21
才能のある子どもを見つけること。	2	7	32	111	45	0	－147
いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること。	31	69	92	16	1	0	+336
コンクールに入賞させること。	2	12	33	119	39	0	－132
いろいろな表現方法を経験させ、身につけさせること。	10	68	117	16	0	0	+277
他クラスの先生方や保護者が感心する作品をつくること。	0	0	29	120	50	1	－195
年間指導計画や教科書の題材を消化してこなすこと。	1	4	47	111	37	0	－126
正直言って、他教科と比較してあまり重視していない。	0	2	28	84	85	0	－222
その他	1	2	0	0	0	0	+8

Q 5：造形美術教育に関して、無視できない事柄や問題点はどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導(保育)要領に示されている教育内容	10	61	102	19	5	0	+235
廊下などの作品掲示で、隣や他のクラスの作品	1	8	65	100	18	0	－51
クラスの子も達が、造形表現を楽しんでいるか	19	101	66	18	4	0	+318
限られた授業時間数でどう授業を行うか。	11	54	99	35	6	0	+204
クラスに造形表現にやる気のない子どもがいること	4	22	61	85	21	1	－10
クラスの中に造形表現が嫌いな子どもがいること	4	23	67	73	22	1	+8
他の先生方の指導によるコンクールでの表彰結果など	0	3	26	117	39	1	－167
同じ学年の先生や他のクラスの先生たちの見方や評価	0	2	57	97	33	0	－102
学校の校長、教頭などの管理職の先生方の見方や評価	0	3	31	111	40	0	－154
作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気	6	8	55	92	32	0	－61
施設や用具などの整備状況	3	39	112	38	2	0	+160
年間使用できる材料費、教材費	3	36	101	54	0	0	+131
年間指導計画や教科書を消化しなければならないこと	2	10	72	92	14	0	－20

自分のクラスの保護者の見方や評価及び言動	0	2	46	120	21	0	-112
教科の教育以外のいろいろな雑用や公務分掌	1	23	60	83	18	0	-9
授業時間中に他の仕事に利用してしまったことがある	0	6	40	74	57	0	-136
その他	1	1	2	0	0	0	+8

Q 6：現在の学校園の立場から、入学（入園）前段階に期待したいことはどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	◎	肯定値
基礎的な技法や知識をしっかりと身に付けてきてほしい。	0	4	27	114	43	0	-165
基本的な用具の扱いをしっかりと身に付けてきてほしい。	2	5	38	111	34	0	-123
いろいろな素材体験や経験をたっぷりとしてきてほしい。	17	83	72	22	7	0	+270
見て描く練習（スケッチなど）をしっかりとやってきてほしい	3	7	20	102	60	0	-176
造形表現の楽しさを経験し、その喜びを感じてきてほしい。	20	117	61	12	2	0	+359
友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度。	12	94	75	14	2	0	+293
正直言って、今の段階で勝負なので、あまり期待しない。	0	16	58	74	30	0	-44
その他	1	0	0	0	0	0	+4

Q 7：現在の学校園の立場から、卒業（卒園）後に期待したいことはどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	◎	肯定値
造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい。	13	108	68	9	0	0	+327
現在の学校で、学んだ表現技法や知識を生かしてほしい。	2	42	102	36	0	0	+158
美術を愛好する心情を育ててほしい。	10	92	88	7	0	0	+305
将来に生きてはたらく力を身に付けてほしい。	7	50	90	38	2	0	+176
正直言って、連携も無いし、あまり考えていない。	0	2	25	91	53	1	-172
学校種間の連携は、特に必要ないと考えている。	0	2	23	81	63	1	-184
その他	1	1	0	0	0	0	+6

Q 8：これからの造形美術教育の在り方を考える上で、特に考えるべき事柄などありましたら教えてください。授業を展開する上で考慮したいことなど具体的なことで結構です。 ＊自由記述一部抜粋

- ・造形教育によって大きな生きる力が、ついていることを発信していくべき。
- ・限られた時間数の中で、何を大切にすべきか。
- ・造形美術教育でつける力とそのカリキュラムをつくること。
- ・図工における確かな学力をつけること。
- ・上手下手に関係なく、自分の思いを表現し満足感や成就感を得て生活を豊かにしていくことが大切だと思う。
- ・心を育てる造形教育のあり方。
- ・やる気・満足・愛着心を大切にしたい。
- ・人格形成の場である造形教育が願い。
- ・作ること、観ることが好きという子どもを沢山育てたい。
- ・造形教育の重要性を子どもの姿で説得すること。
- ・造形活動を楽しみ、子どもの思いを大事にした授業を展開したいと思う。
- ・一人一人の感性を大事にする為にどういった支援をしたら良いか。
- ・いかに自分の思いを表現するか、心を開かせて表現させるか。
- ・児童の作品完成にあたっての満足感達成感が得られること。
- ・評価について自信がもてない。
- ・授業時数の確保（4名）
- ・ゆっくり、じっくりと継続した時間をかけて取り組みたい。（2名）
- ・小・中のつながり。
- ・子どもの感覚の時代変化。
- ・表現を楽しむと同時に、作品にも愛着を持てるようにしたい。
- ・主要四教科から比較すると軽視されている。
- ・楽しさや豊かさに触れる機会が減りつつある。
- ・子どもが図工を楽しみにしている思いに応えたい。

## 造形美術教育実態調査結果：

中学校まとめ

Q 1：勤務されている学校種 中学校－84名

Q 2：あなたの教職歴は？

10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	未記入	合 計
16人	30人	26人	7人	5人	84人

Q 3：現在何年生を担当していますか？

1年生	2年生	3年生	1、2年生	2、3年生	1、3年生	全学年	その他	未記入	合計
6人	9人	6人	0人	0人	0人	26人	31人	6人	84人

Q 4：造形美術教育に関して、あなたが特に重視していることはどんなことですか。

以下の中から該当する事柄(いくつでも)に、当てはまる程度の番号に○をしてください。重視する  
度合いの特に強いものには◎をしてください。

とても当てはまる－4 ほぼ当てはまる－3 あまり当てはまらない－2 まったく当てはまらない－1

	4◎	4 +2	3 +1	2 -1	1 -2	1◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教科目標	2	22	47	11	0	0	+ 88
上手に作品を描いたり作れたりすること。	0	7	47	24	0	0	+ 37
個々の子どもの思いや願いを表現させること。	10	52	22	0	0	0	+166
きらりと光るような作品を作るような子どもを育てること	2	22	42	17	0	0	+ 77
造形表現の楽しさを味わわせること。	13	54	16	1	0	0	+175
発達段階に見合った表現をさせること。	2	20	46	15	0	0	+ 79
子どもに自由にやらせること。	0	3	16	49	10	0	- 47
才能のある子どもを見つけること。	0	2	15	40	14	0	- 49
いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること。	3	26	42	13	0	0	+ 93
コンクールに入賞させること。	0	2	18	44	12	0	- 46
いろいろな表現方法を経験させ、身につけさせること。	1	26	48	8	0	0	+ 96
他クラスの先生方や保護者が感心する作品をつくること。	0	2	11	44	16	0	- 45
年間指導計画や教科書の題材を消化してこなすこと。	0	1	15	43	18	0	- 62
正直言って、他教科と比較してあまり重視していない。	0	0	9	15	51	0	-108
その他	1	5	1	0	0	0	+ 15

Q 5：造形美術教育に関して、無視できない事柄や問題点はどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教育内容	3	17	35	20	1	0	+ 59
廊下などの作品掲示で、隣や他のクラスの作品	0	4	19	37	12	0	- 34
クラスの子ども達が、造形表現を楽しんでいるか	7	36	25	7	4	0	+110
限られた授業時間数でどう授業を行うか。	15	33	21	10	2	0	+133
クラスに造形表現にやる気のない子どもがいること	3	20	29	23	1	0	+ 56
クラスの中に造形表現が嫌いな子どもがいること	1	19	34	20	1	0	+ 54
他の先生方の指導によるコンクールでの表彰結果など	0	0	8	42	21	0	- 76
同じ学年の先生や他のクラスの先生たちの見方や評価	0	1	18	40	14	0	- 48
学校の校長、教頭などの管理職の先生方の見方や評価	1	0	17	43	13	0	- 48
作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気	2	7	26	31	10	0	- 3

施設や用具などの整備状況	4	18	52	7	0	0	+ 97
年間使用できる材料費、教材費	1	18	44	14	2	0	+ 66
年間指導計画や教科書を消化しなければならないこと	1	1	20	45	8	0	- 35
自分のクラスの保護者の見方や評価及び言動	0	0	19	48	7	0	- 43
教科の教育以外のいろいろな雑用や公務分掌	3	22	28	21	0	0	+ 63
授業時間中に他の仕事に利用してしまったことがある	0	2	14	27	29	0	- 67
その他	1	0	0	1	0	0	+ 3

Q 6：現在の学校園の立場から、入学（入園）前段階に期待したいことはどんなことですか。

	4 ◎	4	3	2	1	1 ◎	肯定値
基礎的な技法や知識をしっかりと身に付けてきてほしい。	2	13	18	33	8	0	+ 3
基本的な用具の扱いをしっかりと身に付けてきてほしい。	4	25	26	17	4	0	+ 67
いろいろな素材体験や経験をたっぷりとしてきてほしい。	2	22	37	12	1	0	+ 75
見て描く練習（スケッチなど）をしっかりとやってきてほしい	4	8	31	25	5	0	+ 28
造形表現の楽しさを経験し、その喜びを感じてきてほしい。	12	54	12	2	1	0	+164
友だちの作品をあたたく見て、お互いに認められる態度。	10	45	22	1	1	0	+149
正直言って、今の段階で勝負なので、あまり期待しない。	1	3	12	35	16	1	- 49
その他	1	0	0	0	0	0	+ 4

Q 7：現在の学校園の立場から、卒業（卒園）後に期待したいことはどんなことですか。

	4 ◎	4	3	2	1	1 ◎	肯定値
造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい。	6	36	26	7	0	0	+115
現在の学校で、学んだ表現技法や知識を生かしてほしい。	0	12	46	13	0	0	+ 57
美術を愛好する心情を育ててほしい。	13	52	16	1	0	0	+171
将来に生きてはたらく力を身に付けてほしい。	1	22	40	8	1	0	+ 78
正直言って、連携も無いし、あまり考えていない。	0	2	13	29	24	1	- 64
学校種間の連携は、特に必要ないと考えている。	0	0	8	31	29	1	- 85
その他	0	2	0	0	0	0	+ 4

Q 8：これからの造形美術教育の在り方を考える上で、特に考えるべき事柄などありましたら教えてください。授業を展開する上で考慮したいことなど具体的なことで結構です。＊自由記述 一部抜粋

- ・ 個の想いとか願いとかいう言葉が、多用されるがはっきりしない。
- ・ 時間数削減の中でいかに内容を精選し、美術教育の幅広い必要性を子ども達に伝えていくか。
- ・ 与えられたものから発展させる力。新しいものを生み出す力がこれからは必要。
- ・ 造ること、見ること等美術の本質を身につけさせること。
- ・ 美術の本質を担うであろう自己、他者とのコミュニケーション等が気になる。
- ・ 他教科に比べて弱点等を整理し、教育法の研究をするべき。
- ・ 美術教育の生き残りの為、心にとって、必要な教育であることを声高に主張すべき。
- ・ 美術教育が人間の心の成長に重要であること。
- ・ 作る喜びや感動が生きる力に通じるのではないだろうか。
- ・ ゆっくり、じっくりと継続した時間をかけて取り組みたい。
- ・ 限られた時間数の中で何を大切にすべきか。
- ・ 時数が少ない中でいかに豊かな体験をさせていけるか。（5名）
- ・ 短い授業時数の中で、どうやって基礎基本を身につけ、造形活動に生かせるか。
- ・ 限られた時数でどう取り組むか。（2名）
- ・ 時数削減をマイナスに捉えず、その時間で子ども達の力を存分に発揮出来るように心がけること。
- ・ 子ども一人一人が生き生きと活動する為にはどうしたら良いか。
- ・ 授業時数の確保。（4名）

## 造形美術教育実態調査結果：

## 高等学校まとめ

Q 1：勤務されている学校種 高等学校— 12名

Q 2：あなたの教職歴は？

10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	未記入
5 人	2 人	4 人	1 人	0 人

Q 3：現在何年生を担当していますか？

1 学年	2 学年	3 学年	全学年担当	未記入
2 人	1 人	0 人	8 人	1 人

Q 4：造形美術教育に関して、あなたが特に重視していることはどんなことですか。

以下の中から該当する事柄（いくつでも）に、当てはまる程度の番号に○をしてください。重視する度合の特に強いものには◎をしてください。

とても当てはまる— 4    ほぼ当てはまる— 3    あまり当てはまらない— 2    まったく当てはまらない— 1

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教科目標	1	2	6	2	1	0	+ 10
上手に作品を描いたり作れたりすること。	0	1	6	4	0	0	+ 4
個々の子どもの思いや願いを表現させること。	1	5	6	0	0	0	+ 20
きらりと光るような作品を作るような子どもを育てること。	0	2	7	3	0	0	+ 8
造形表現の楽しさを味わわせること。	4	4	3	1	0	0	+ 26
発達段階に見合った表現をさせること。	0	3	8	1	0	0	+ 13
子どもに自由にやらせること。	0	0	6	4	1	0	0
才能のある子どもを見つけること。	0	0	5	5	0	0	0
いろいろな材料や素材にふれさせ体験させること。	1	3	6	0	0	0	+ 16
コンクールに入賞させること。	0	1	1	4	4	0	— 9
いろいろな表現方法を経験させ、身につけさせること。	1	1	6	2	2	0	+ 6
他クラスの先生方や保護者が感心する作品をつくること。	0	1	1	2	6	0	— 11
年間指導計画や教科書の題材を消化してこなすこと。	0	0	0	5	4	0	— 13
正直言って、他教科と比較してあまり重視していない。	0	0	0	0	7	0	— 14
その他	0	0	0	0	0	0	0

Q 5：造形美術教育に関して、無視できない事柄や問題点はどんなことですか。

	4◎	4	3	2	1	1◎	肯定値
学習指導（保育）要領に示されている教育内容	2	1	5	3	0	0	+ 12
廊下などの作品掲示で、隣や他のクラスの作品	0	1	0	4	4	0	— 10
クラスの子も達が、造形表現を楽しんでいるか	3	3	3	2	0	0	+ 19
限られた授業時間数でどう授業を行うか。	2	6	4	0	0	0	+ 24
クラスに造形表現にやる気のない子どもがいること	0	2	6	3	0	0	+ 8
クラスの中に造形表現が嫌いな子どもがいること	0	2	2	5	0	0	+ 1
他の先生方の指導によるコンクールでの表彰結果など	0	0	0	2	7	0	— 16
同じ学年の先生や他のクラスの先生たちの見方や評価	0	0	0	4	5	0	— 14
学校の校長、教頭などの管理職の先生方の見方や評価	0	1	0	4	4	0	— 11
作品の上手下手にこだわる風潮や雰囲気	0	0	3	2	5	0	— 9



施設や用具などの整備状況	0	4	7	1	0	0	+ 14
年間使用できる材料費、教材費	1	5	1	3	1	0	+ 10
年間指導計画や教科書を消化しなければならないこと	0	0	0	7	2	0	- 11
自分のクラスの保護者の見方や評価及び言動	0	0	1	2	6	0	- 13
教科の教育以外のいろいろな雑用や公務分掌	0	3	4	2	0	0	+ 8
授業時間中に他の仕事に利用してしまったことがある	0	0	1	1	6	0	- 12
その他	0	0	0	0	0	0	

Q 6：現在の学校園の立場から、入学（入園）前段階に期待したいことはどんなことですか。

	4 ◎	4	3	2	1	1 ◎	肯定値
基礎的な技法や知識をしっかりと身に付けてきてほしい。	1	3	1	2	0	0	+ 9
基本的な用具の扱いをしっかりと身に付けてきてほしい。	1	4	1	2	0	0	+ 11
いろいろな素材体験や経験をたっぷりとしてきてほしい。	0	3	3	1	0	0	+ 8
見て描く練習（スケッチなど）をしっかりとやってきてほしい	1	2	6	1	0	0	+ 13
造形表現の楽しさを体験し、その喜びを感じてきてほしい。	2	6	1	1	0	0	+ 20
友だちの作品をあたたかく見て、お互いに認められる態度。	1	4	4	1	0	0	+ 15
正直言って、今の段階で勝負なので、あまり期待しない。	0	0	3	2	3	0	- 5
その他	0	0	0	0	0		

Q 7：現在の学校園の立場から、卒業（卒園）後に期待したいことはどんなことですか。

	4 ◎	4	3	2	1	1 ◎	肯定値
造形表現の楽しさを重視することを継承してほしい。	2	4	3	0	0	0	+ 19
現在の学校で、学んだ表現技法や知識を生かしてほしい。	1	2	3	2	1	0	+ 7
美術を愛好する心情を育ててほしい。	1	8	2	0	0	0	+ 22
将来に生きてはたらく力を身に付けてほしい。	0	4	5	0	0	0	+ 13
正直言って、連携も無いし、あまり考えていない。	0	0	1	2	5	0	- 11
学校種間の連携は、特に必要ないと考えている。	0	0	0	3	6	0	- 15
その他	0	0	0	0	0	0	+ 6

Q 8：これからの造形美術教育の在り方を考える上で、特に考えるべき事柄などありましたら教えてください。  
\*自由記述一部抜粋

- ・作品の良し悪しだけでなく、生徒個々の表現方法や考え方も重視し、本人にわかりやすく評価すべき。
- ・入学前の学習内容や体験がまちまちな一方、基礎的な知識や体験が乏しい生徒を多く見られる。入学後にもう一度教える必要を感じなければならないことが多い。
- ・ある程度統一したカリキュラムを実施する必要がある。
- ・発達段階に応じた題材と授業の展開。
- ・制作以前の問題として、やるべき仕事をやりとげる経験をさせる必要を感じている。
- ・カリキュラム減の問題
- ・学習時間の確保
- ・高校で美術を選択する生徒数が減少している。
- ・中学校では合唱など全校で取り組む傾向が強く、美術を取り組む面が弱い。
- ・中学・高校の正規美術教員の減少。
- ・他教科、科目との関連付け
- ・美術という科目の中に様々な学問の要素があるということをもっと引き出していくべき。
- ・小学校は、専科職員にすべき。

## Summary

**FURIHATA, Takashi :**

### **The Actual Circumstances and the Problems of Art Education**

#### **——Considerations based on the research of the Yamagata Art Education League——**

This research attempts to clarify what the actual state is of art education in the schools and what are the problems and issues. This research is based on the results of the questionnaires the Yamagata Art Education League gave to teachers.

The results reconfirmed that all the art teachers from pre-school and from kindergarten through high school emphasize the importance of “the children’s enjoyment of creative expression” and “letting the children express their ideas and hopes in art.” One problem is the limited class time for art education and insufficient facilities and equipment, which is a situation that cannot be ignored, especially by middle school and high school teachers.

Another issue is the differences in the awareness of the teachers, according to various points on the questionnaire. This is a major factor which results in differences in art education. Based on the actual results of this research, I would like to present some actual concrete methods to resolve these problems and improve the level of art education.